

牛久：学校周辺に見る自然

第40号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年11月2日発行

< そよかぜ学級と歩いたみずべ公園 >



ひたち野うしく小3年2組の皆さんと歩いた9日後、今度はそよかぜ学級の皆さんといっしょにみずべ公園で生きもの観察をしました。まず見つけたのは、ナナホシテントウのさなぎ。よく見ると、少しずつともうや色あいが違います。

ナナホシテントウのさなぎ。



ムラサキシジミ(左上)。

羽を開くと金属光沢のある青いもようが見える(右)。よく似たムラサキツバメ(左下)。後ろの羽に突起がある。



続いて、成虫で冬を越すチョウのなかま。よく似たムラサキシジミとムラサキツバメ。どこが違うか分かりますか？よく見ると羽のもようも違いますが、ムラサキツバメでは後ろの羽に突起があることで見分けられます。羽を開くと表の輝く青が見えます。



こちらのウラギンシジミも

成虫越冬でしたね。上の2種類とともに、たくさん見られました。コナラの枝に数頭でかたまっていたのも見られました。なかなか羽を開いてくれませんでした。開くとおすどめすで表の色が異なるので見分けられます。

草の葉の裏にとまるウラギンシジミ(左)。シラカシの葉にとまるおす(右上)とめす(右下)。



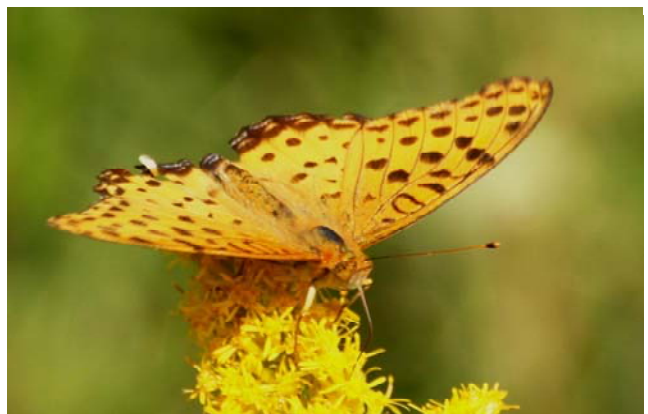
こちらも成虫越冬の、キタテハ。羽を開くと黄色～オレンジ色のもようが目立ちますが。閉じると、枯れ葉みたいですね。たぶんなかまのルリタテハもいるはずなのですが、見つけることはできませんでした。白い「C」のマークが特ちょう。この日はたくさんいて、コナラの木には見える範囲で数えたら同時に6頭とまっていたいました。

コナラに何頭も集まったキタテハ。ここまで成虫越冬。



交尾中のヤマトシジミ(左上)。 ムラサキツメクサの蜜を吸うチャバネセセリ(右上)。 セイタカアワダチソウの蜜を吸うモンキチョウ(左下)。 文字通り日かげにいてめだたなかったヒカゲチョウ(右下)。これらは幼虫で冬を越す。

次は、幼虫で冬を越すチョウ。ヤマトシジミはこの日も食草カタバミのまわりをたくさん飛んでいて、交尾しているものもいました。咲いている花も少なくなりましたが、ムラサキツメクサではチャバネセセリが、セイタカアワダチソウではモンキチョウが蜜を吸っていました。また、ヒカゲチョウが林の下の草かげにじっとしていました。目だたない色でじっとしていると、見つけにくいです。セイタカアワダチソウには、さなぎ越冬のモンシロチョウやツマグロヒョウモンも来ていました。



セイタカアワダチソウの蜜を吸うモンシロチョウ(左:さなぎ越冬)と、ツマグロヒョウモン(右:幼虫かさなぎで越冬)。



ガの幼虫で葉を食べるフクラスズメ(左)とシダレヤナギの葉を食べるセグロシャチホコ(中)、ヒロヘリアオイラガ(右)。

ガの幼虫も、いろいろ見られました。あざやかなもようのフクラスズメ、シダレヤナギにはセグロシャチホコ、そしてコナラの葉の裏にヒロヘリアオイラガ。フクラスズメは目立ちますが、毒はありません。セグロシャチホコも最初ドクガのなかまかと思いましたが、調べてみて無毒のシャチホコガのなかまと分かりました。こういうのを「擬態(ぎたい)」といいます。ヒロヘリアオイラガはトゲトゲがあっても毒のあるガという感じですが、こちらは見た目の通り刺されるとものすごく痛いです。もし刺されたらガムテープなどで毒針を抜き、早めに皮膚科で薬を出してもらおうとよいそうです。



ハナアブのなかま、ヒラタアブ類のさなぎ。



触角の長〜い、ホシササキリ。

ヒラタアブ類のさなぎは、変わった形でおもしろかったですね。

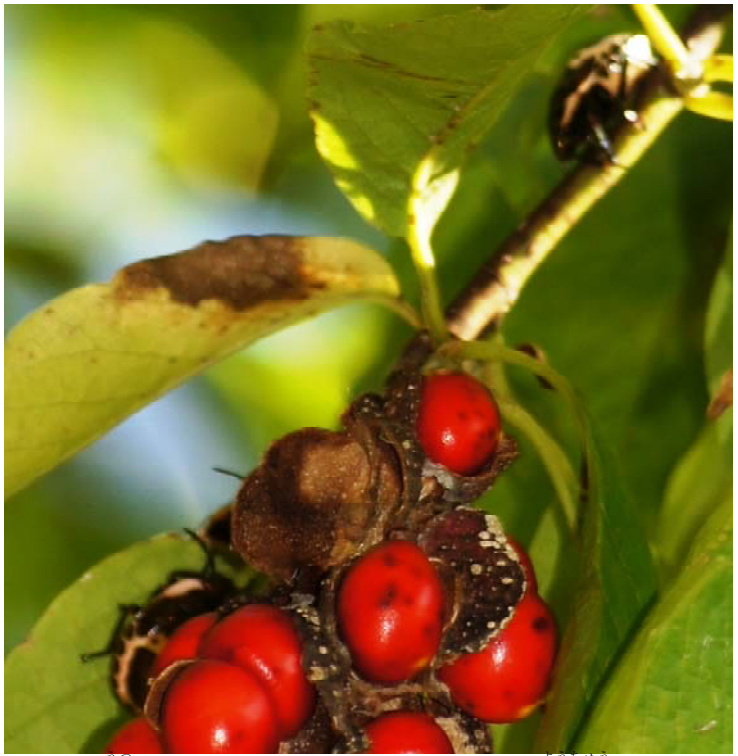
バッタのなかまはいくらも見られませんが、もうすぐ終了というところにホシササキリを見つけてくれました。びっくりするくらい長い触角ですね。



ヤマブキの枝につくられた、ハラビロカマキリの卵のう(左)と、学校に入ってから見つけてくれた成虫(右)。



カマキリの成虫は公園内では見つけられませんでした。ヤマブキの細い枝にこれまた小さなハラビロカマキリの卵のうを見つけてきました。そして学校に入ってから、その成虫を見つけてくれました。



コナラの葉にいたホソヘリカメムシ(左上)と、コブシの実に写りこんでいたアカスジキンカメムシの幼虫(右)。コナラの枝にいたクリオオアブラムシ(左下)。

カメムシのなかまでは、コナラの葉の上にホソヘリカメムシを見つけました。スリムですが、後足の太いカメムシです。また、コブシの実の写真を見て後で見たら、アカスジキンカメムシの幼虫がいました。これも擬態(ぎたい)ですね。コナラの枝には、カメムシと親せきのアブラムシのなかまで、まっ黒で大きいクリオオアブラムシがいました。



赤とんぼのなかま、ノシメトンボのめす(左上)とアキアカネ(右上)、ナツアカネのめす(左上)とおす(右下)。赤とんぼはこの日も、ノシメトンボ、ナツアカネ、アキアカネの3種類が見られました。



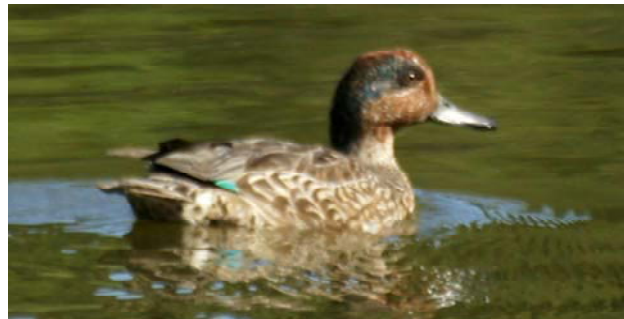
はねを八の字形に、半開きにしてとまるのが特ちょうのアオイトトンボがいました。3年生と歩いた時にも、いるはずなのになあと思いながら見つけれなかったトンボです。パッと見ておすだと思いましたが、みんなをよぼぼうと思って目をはなしたすきに逃げられてしまいました。あとで写真の腹端を見て、おすによく似た特ちょうをもつめすだと分かりました。ややこしいですね。

アオイトトンボのおす型のめす。



ナナホシテントウのさなぎに近づくハナグモ(左)とジョロウグモの卵のう(中)、えものを待つオニグモ(右)。

クモはやはりジョロウグモが多く見られましたが、産卵もすんだのかほっそりして動きのにぶいのもいました。その他、ハナグモとオニグモを見つけてくれましたね。皆さん、いい目をもっています。



鳥はヤマガラがエゴノキの実を食べているのを見ましたが、残念ながら写真にはとれませんでした。ぜひ、「ヤマガラ」でサイト内検索してみてください。みずべ公園のヤマガラのようすがいくつか見られます。ヤマガラにまじって、日本最小のキツツキのコゲラと、シジウカラも見られましたね。池には冬鳥も来ていました。



一年中いるコゲラ(左上)とシジウカラ(左下)。冬鳥コガモ(右上)とハシビロガモ(右下2枚：左がおす)。



最後に、いつもだれかしら見つけてくれるカナヘビ。体がかさかさして尾が長いのが特ちょうですが、この長い尾は、草の上を移動するときにバランスをとるのに役立っているそうです。

【理科支援員：宮内】

いつも、だれかが見つけてくれる、カナヘビ。